



インストール・ガイド

Software Developer's Kit および Open Server™

15.7

[Microsoft Windows 版]

ドキュメント ID : DC32424-01-1570-02

改訂 : 2012 年 4 月

Copyright © 2012 by Sybase, Inc. All rights reserved.

このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル・ノートで特に示されないかぎり、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。

このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。

Sybase の商標は、the Sybase trademarks page (<http://www.sybase.com/detail?id=1011207>) で確認できます。Sybase およびこのリストに掲載されている商標は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。® は、米国における登録商標であることを示します。

このマニュアルに記載されている SAP、その他の SAP 製品、サービス、および関連するロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。

Java および Java 関連の商標は、米国およびその他の国における Oracle およびその関連会社の商標または登録商標です。

Unicode と Unicode のロゴは、Unicode, Inc. の登録商標です。

このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568.

目次

はじめに.....	v
第 1 章	作業を始める前に 1
	SDK と Open Server のコンポーネント 1
	SDK のコンポーネント 1
	Open Server のコンポーネント 5
	SDK と Open Server のシステム稼働条件 7
	ハードウェアおよびソフトウェアの稼働条件 7
	必要なディスク領域 11
	コンパイラの稼働条件 12
	SDK と Open Server のインストール前の作業 14
第 2 章	SDK と Open Server のインストール 17
	SDK または Open Server インストーラの使用 17
	SDK または Open Server のインストール 18
	15.7 より前の Adaptive Server と同じマシンへの SDK または Open Server 15.7 のインストール 19
	SDK または Open Server 15.7 のバージョン 15.5 ディレクトリへのインストール 20
	GUI モードでのインストール 21
	コンソール・モードでのインストール 24
	応答ファイルを使用したインストール 25
	SDK または Open Server のアンインストール 27
	アンインストール手順 27
	SDK または Open Server のダウングレード 29
	コマンド・ライン・オプション 30

第 3 章	インストール後の作業	31
	環境変数の設定	31
	Python 用サンプル・スクリプトの実行	31
	コンポーネントの設定	32
	jConnect for JDBC のインストール後の作業	33
	JDBC_HOME の設定	33
	CLASSPATH の設定	33
	ストアド・プロシージャのインストール	34
	インストール内容の確認	36
	jConnect インストール環境のテスト	37
	jConnect のアップグレード	39
索引		41

はじめに

対象読者

このマニュアルは、システム管理者、または Software Developer's Kit (SDK) または Open Server[®] のインストール担当者を対象としています。

このマニュアルの内容

このマニュアルには、以下の章があります。

- 「第 1 章 作業を始める前に」では、インストール前の情報と作業について説明します。
- 「第 2 章 SDK と Open Server のインストール」では、SDK および Open Server をインストールする方法について説明します。
- 「第 3 章 インストール後の作業」では、SDK と Open Server 用のコンポーネント・ソフトウェアをインストールした後に実行する必要のある作業について説明します。

関連マニュアル

詳細については、これらのマニュアルを参照できます。

- 『Open Server および SDK 新機能 Windows、Linux および UNIX 版』では、Open Server と Software Developer's Kit の新機能について説明しています。このマニュアルは、新機能の提供に伴って改訂されます。
- 使用しているプラットフォームの『Open Server リリース・ノート』には、Open Server に関する重要な最新情報が記載されています。
- 使用しているプラットフォームの『Software Developer's Kit リリース・ノート』には、Open Client[™] および SDK に関する重要な最新情報が記載されています。
- 『jConnect[™] for JDBC[™] リリース・ノート』には、jConnect に関する重要な最新情報が記載されています。
- 使用しているプラットフォームの『Open Client[™]/Server 設定ガイド』には、システムを設定して Open Client/Server 製品を実行する方法について説明しています。
- 『Open Client Client-Library/C プログラマーズ・ガイド』では、Client-Library アプリケーションの設計方法および実装方法について説明しています。

-
- 『Open Client Client-Library/C リファレンス・マニュアル』では、Open Client Client-Library™ のリファレンス情報について説明しています。
 - 『Open Server Server-Library/C リファレンス・マニュアル』では、Open Server Server-Library のリファレンス情報について説明しています。
 - 『Open Client および Open Server Common Libraries リファレンス・マニュアル』では、CS-Library のリファレンス情報について説明しています。CS-Library は、Client-Library と Server-Library の両方のアプリケーションで役に立つユーティリティ・ルーチンの集まりです。
 - 『Open Server DB-Library/C リファレンス・マニュアル』では、C バージョンの Open Client DB-Library™ のリファレンス情報について説明しています。
 - 使用しているプラットフォームの『Open Client/Server プログラマーズ・ガイド補足』では、Open Client/Server を使用するプログラマのために、プラットフォーム固有の情報について説明しています。このマニュアルには、次の情報が含まれています。
 - アプリケーションのコンパイルおよびリンク
 - Open Client/Server に含まれているサンプル・プログラム
 - プラットフォーム固有の動作をするルーチン
 - 『Sybase® SDK DB-Library Kerberos 認証オプションのインストールおよびリリース・ノート』では、DB-Library で使用する MIT Kerberos セキュリティメカニズムをインストールして有効にする方法について説明しています。DB-Library でサポートされる Kerberos セキュリティ・メカニズムの機能は、ネットワーク認証サービスと相互認証サービスのみです。
 - 『Open Client Client-Library 移行ガイド』には、Open Client™ DB-Library™ アプリケーションを Open Client Client-Library に移行する方法に関する情報が記載されています。
 - 『Open Client/Server 開発者用国際化ガイド』では、国際化されたアプリケーションとローカライズされたアプリケーションを作成する方法について説明しています。
 - 『Open Client Embedded SQL™/C プログラマーズ・ガイド』では、C アプリケーションで Embedded SQL および Embedded SQL プリコンパイラを使用する方法について説明しています。

- 『Open Client Embedded SQL™/COBOL プログラマーズ・ガイド』では、COBOL アプリケーションで Embedded SQL および Embedded SQL プリコンパイラを使用する方法について説明しています。
- 『jConnect for JDBC プログラマーズ・リファレンス』では、jConnect for JDBC 製品について説明し、リレーショナル・データベース管理システムに保管されているデータにアクセスする方法について説明しています。
- 『Adaptive Server® Enterprise ADO.NET Data Provider ユーザーズ・ガイド』では、C#、Visual Basic .NET、マネージ拡張を備えた C++、J# など、.NET でサポートされる任意の言語を使用して Adaptive Server 内のデータにアクセスする方法について説明しています。
- Sybase® 製 Adaptive Server Enterprise ODBC ドライバの『ユーザーズ・ガイド』(Microsoft Windows および UNIX 版)では、Microsoft Windows および UNIX プラットフォームの Adaptive Server から、Open Database Connectivity (ODBC) ドライバを使用してデータにアクセスする方法について説明しています。
- Sybase 製 Adaptive Server Enterprise OLE DB プロバイダの『ユーザーズ・ガイド』(Microsoft Windows 版)では、Microsoft Windows プラットフォームの Adaptive Server から、Adaptive Server OLE DB プロバイダを使用してデータにアクセスする方法について説明しています。
- 『Perl 用 Adaptive Server Enterprise データベース・ドライバ・プログラマーズ・ガイド』では、Perl 開発者が Perl スクリプトを使用して Adaptive Server のデータベースに接続し、情報をクエリまたは変更する方法について説明しています。
- 『PHP 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』では、PHP 開発者が Adaptive Server データベースに対してクエリを実行する方法について説明しています。
- 『Python 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』では、Adaptive Server データベースに対してクエリを実行するときに使用できる Sybase 固有の Python インタフェースについて説明しています。

その他の情報

Sybase Getting Started CD および Sybase Product Documentation Web サイトを利用すると、製品について詳しく知ることができます。

- Getting Started CD には、リリース・ノートとインストール・ガイドが PDF 形式で含まれています。この CD は製品のソフトウェアに同梱されています。Getting Started CD に収録されているマニュアルを参照または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です (CD 内のリンクを使用して Adobe の Web サイトから無料でダウンロードできます)。
- Sybase Product Documentation Web サイトには、標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。また、製品ドキュメントのほか、EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、ニュース・グループ、Sybase Developer Network へのリンクもあります。

Sybase Product Documentation Web サイトは、Product Documentation (<http://www.sybase.com/support/manuals/>) にあります。

Web 上の Sybase 製品の動作確認情報

Sybase Web サイトの技術的な資料は頻繁に更新されます。

❖ 製品認定の最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで Technical Documents (<http://www.sybase.com/support/techdocs/>) を指定します。
- 2 [Partner Certification Report] をクリックします。
- 3 [Partner Certification Report] フィルタで製品、プラットフォーム、時間枠を指定して [Go] をクリックします。
- 4 [Partner Certification Report] のタイトルをクリックして、レポートを表示します。

❖ コンポーネント認定の最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで Availability and Certification Reports (<http://certification.sybase.com/>) を指定します。
- 2 [Search By Base Product] で製品ファミリとベース製品を選択するか、[Search by Platform] でプラットフォームとベース製品を選択します。
- 3 [Search] をクリックして、入手状況と認定レポートを表示します。

❖ **Sybase Web サイト (サポート・ページを含む) の自分専用のビューを作成する**

MySybase プロファイルを設定します。MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用カスタマイズできます。

- 1 Web ブラウザで Technical Documents (<http://www.sybase.com/support/techdocs/>) を指定します。
- 2 [MySybase] をクリックし、MySybase プロファイルを作成します。

Sybase EBF とソフトウェア・メンテナンス

❖ **EBF とソフトウェア・メンテナンスの最新情報にアクセスする**

- 1 Web ブラウザで the Sybase Support Page (<http://www.sybase.com/support>) を指定します。
- 2 [EBFs/Maintenance] を選択します。MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
- 3 製品を選択します。
- 4 時間枠を指定して [Go] をクリックします。EBF/Maintenance リリースの一覧が表示されます。

鍵のアイコンは、「Technical Support Contact」として登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録でも、Sybase 担当者またはサポート・コンタクトから有効な情報を得ている場合は、[Edit Roles] をクリックして、「Technical Support Contact」の役割を MySybase プロファイルに追加します。

- 5 EBF/Maintenance レポートを表示するには [Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。

表記規則

表 1 : 構文の表記規則

キー	定義
コマンド	コマンド名、コマンドのオプション名、ユーティリティ名、ユーティリティのフラグ、キーワードは大文字で示す。
変数	変数 (ユーザが入力する値を表す語) は斜体で表記する。
{ }	中カッコは、その中から必ず 1 つ以上のオプションを選択しなければならないことを意味する。コマンドには中カッコは入力しない。

キー	定義
[]	角カッコは、オプションを選択しても省略してもよいことを意味する。コマンドには中カッコは入力しない。
()	このカッコはコマンドの一部として入力する。
	中カッコまたは角カッコの中の縦線で区切られたオプションのうち1つだけを選択できることを意味する。
,	中カッコまたは角カッコの中のカンマで区切られたオプションをいくつでも選択できることを意味する。複数のオプションを選択する場合には、オプションをカンマで区切る。

アクセシビリティ機能

このマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。この HTML 版マニュアルは、スクリーン・リーダーで読み上げる、または画面を拡大表示するなどの方法により、その内容を理解できるよう配慮されています。

Open Client および Open Server のマニュアルは、連邦リハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティ・ガイドラインにも準拠しています。

注意 アクセシビリティ・ツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合もあります。一部のスクリーン・リーダーは、テキストの大文字と小文字を区別して発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音します。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれませんが。詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、Sybase Accessibility (<http://www.sybase.com/accessibility>) を参照してください。Sybase Accessibility サイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。

不明な点があるときは

Sybase ソフトウェアがインストールされているサイトには、Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタとの連絡担当の方 (コンタクト・パーソン) を決めてあります。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通して Sybase のサポート・センタまでご連絡ください。

作業を始める前に

この章では、システムの稼働条件と、SDK と Open Server をインストールする前に実行する作業に関する情報を示します。

トピック	ページ
SDK と Open Server のコンポーネント	1
SDK と Open Server のシステム稼働条件	7
SDK と Open Server のインストール前の作業	14

SDK と Open Server のコンポーネント

この項では、SDK および Open Server 製品に含まれるコンポーネントの概要について説明します。

SDK のコンポーネント

SDK は、クライアント・アプリケーションを開発するためのライブラリとユーティリティのセットです。次のコンポーネントが含まれています。

- **Open Client** — Adaptive Server データにアクセスする C 言語アプリケーションの開発と展開に使用される API のセット。インストール・メディアの内容は次のとおり。
 - **Client-Library** と Open Server のアプリケーションをディレクトリ・サービスおよびセキュリティ・サービスと統合するためのドライバ
 - **Client-Library** 用のサンプル・プログラムと **DB-Library™** 用のサンプル・プログラム
- **Open Client Embedded SQL™/C** — Transact-SQL® 文を C 言語アプリケーションに埋め込めるようにするプリコンパイラ。インストール・メディアには、Embedded SQL/C 用のサンプル・プログラムも含まれる。

- Open Client Embedded SQL/COBOL – Transact-SQL 文を COBOL 言語アプリケーションに埋め込めるようにするプリコンパイラ。インストール・メディアには、Embedded SQL/COBOL 用のサンプル・プログラムも含まれる。
- 言語モジュール – アプリケーションのローカライズに役立つシステム・メッセージや日時フォーマットを表示する。デフォルトでインストールされる文字セットは次のとおり。

ASCII、未指定の 8 ビット・データで使用される (ascii_8)	BIG 5、中国語 (繁体字) および香港補足文字セット (big5hk)
BIG 5、中国語 (繁体字) (big5)	Microsoft Windows コード・ページ 1250、1251、1252、1253、1254、1255、1256、1257、1258、866 (cp1250、cp1251、cp1252、cp1253、cp1254、cp1255、cp1256、cp1257、cp1258、cp866)
IBM コード・ページ 852、855、857、860、864、869、874、950 (cp437、cp850、cp852、cp855、cp857、cp860、cp864、cp869、cp874、cp950)	コード・ページ 850 のバリエーション (cp858)、JIS-X0201 および JIS-X0208 用 IBM コード・ページ 932 (cp932)
コード・ページ 437、850 (cp437、cp850)	
CP936、中国語 (簡体字) (cp936)	PC (MS) 韓国語 (cp949)
JIS-X0208 用 DEC 漢字コード (dekanji)	NS-11643 用拡張 UNIX コード (euccns)
GB2312-80 用拡張 UNIX コード (eucgb)	JIS-X0201 および JIS-X0208 用拡張 UNIX コード (eucjis)
KSC-5601 用拡張 UNIX コード (eucksc)	P.R.C 標準 GB 18030-2000 (gb18030)
HP ギリシャ語 (greek8)	ISO_8859-15 Latin9、西欧言語 (iso15)
ISO_8859-2 Latin2、東欧言語 (iso88592)	ISO_8859-5 キリル語 (iso88595)
ISO_8859-6 アラビア語、ASMO-708 (iso88596)	ISO_8859-7 ギリシャ語、ELOT_928 (iso88597)
ISO_8859-8 ヘブライ語 (iso88598)	ISO_8859-9 Latin5、トルコ語 (iso88599)
ISO 8859-1 (iso_1)	KOI-8 キリル語 8 ビット (koi8)
カザフスタン、キリル語 (kz1048)	Macintosh 西欧ロケール (mac)
Macintosh キリル語 (mac_cyr)	Macintosh、東欧言語 (mac_ee)

Macintosh、西欧ロケール用ヨーロッパ言語のサポート付き (mac_euro)	Macintosh、ギリシャ語 (macgrk2)
Macintosh、トルコ語 (macturk)	Hewlett-Packard Roman 8 と Roman 9 (roman8、roman9)
JIS-X0201 および JIS-X0208 用 IBM/Microsoft コード (sjis)	タイ工業規格 (tis620)
HP トルコ語、8 ビット (turkish8)	UTF-8 形式でコード化された Unicode (utf8)

追加の言語モジュールは、次のとおりです。

- 中国語
- フランス語
- ドイツ語
- 日本語
- 韓国語
- ポーランド語
- ポルトガル語
- スペイン語
- タイ語

注意 SDK および Open Server は、Adaptive Server と同じ文字セットをサポートしています。

- Adaptive ServerR Enterprise ODBC ドライバ、バージョン 15.7
- Adaptive Server Enterprise OLE DB プロバイダ、バージョン 15.7
- Adaptive Server Enterprise ADO.NET Data Provider バージョン 2.157 および 4.157 – C#、Visual Basic.NET、マネージ拡張を備えた C++、J# など、.NET でサポートされる任意の言語を使用して Adaptive Server 内のデータにアクセスできる。
- jConnect for JDBC 7.07 – Java JDBC 標準の JAVA 実装であり、Java 開発者に多層環境と異種環境でのネイティブ・データベース・アクセスを提供する。jConnect ハードウェアとソフトウェアの要件とインストール手順については、『jConnect for JDBC インストール・ガイド』（バージョン 7.07）を参照。

- Extended Architecture (XA) Interface Library for Adaptive Server Distributed Transaction Manager。XA のサンプル・プログラムも含まれる。
- Python スクリプト言語用の Adaptive Server Enterprise 拡張モジュールを使用すると、Python 開発者は Adaptive Server に対して T-SQL クエリを実行できます。詳細については、『Python 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。インストール・メディアにはサンプルが含まれています。

表 1-1 は、SDK に含まれるライブラリとユーティリティを示します。

表 1-1 : Windows プラットフォーム用の SDK コンポーネントのライブラリとユーティリティ

SDK	Open Client	Embedded SQL/C	Embedded SQL/COBOL	Python
<i>ライブラリ</i>				
Client-Library	x	x	x	x
CS-Library	x	x	x	x
DB-Library	x	該当なし	該当なし	該当なし
Bulk-Library	x	該当なし	該当なし	該当なし
XA-Library	x	該当なし	該当なし	該当なし
Net-Library	x	x	x	x
Common-Library	x	x	x	x
LDAP	x	x	x	x
SSL	x	x	x	x
Kerberos	x	x	x	x
DBAPI	該当なし	該当なし	該当なし	x
intl lib	x	x	x	x
<i>ユーティリティ</i>				
bcp、defncopy、dsedit、ocscfg、isql、certauth、certpk12、certreq、extrjava、instjava、pwdcrypt	x	該当なし	該当なし	該当なし
cpre	該当なし	x	該当なし	該当なし
cobpre	該当なし	該当なし	x	該当なし

記号の説明：x = 利用可能、該当なし = このコンポーネントでは利用できません。

Open Server のコンポーネント

Open Server は、Open Client または jConnect ルーチンを通じて送信されたクライアント要求に応答するカスタム・サーバを作成するために使用できる API とサポート・ツールのセットです。Open Server には、次のコンポーネントが含まれています。

- **Open Server** – API とサポート・ツールのセット。インストール・メディアの内容は次のとおり。
 - **Client-Library** と **Open Server** のアプリケーションをディレクトリ・サービスおよびセキュリティ・サービスと統合するためのドライバ
 - **Server-Library** と **Client-Library** 用のサンプル・プログラム
- **Open Client** – **Adaptive Server** データにアクセスする C 言語アプリケーションの開発と展開に使用される API のセット。インストール・メディアの内容は次のとおり。
 - **Client-Library** と **Open Server** のアプリケーションをディレクトリ・サービスおよびセキュリティ・サービスと統合するためのドライバ
 - **Client-Library** 用のサンプル・プログラムと **DB-Library** 用のサンプル・プログラム
- **言語モジュール** – アプリケーションのローカライズに役立つシステム・メッセージや日時フォーマットを表示する。デフォルトでインストールされる文字セットは次のとおり。

ASCII、未指定の 8 ビット・データで使用される (ascii_8)	BIG 5、中国語 (繁体字) および香港補足文字セット (big5hk)
BIG 5、中国語 (繁体字) (big5)	Microsoft Windows コード・ページ 1250、1251、1252、1253、1254、1255、1256、1257、1258、866 (cp1250、cp1251、cp1252、cp1253、cp1254、cp1255、cp1256、cp1257、cp1258、cp866)
IBM コード・ページ 852、855、857、860、864、869、874、950 (cp437、cp850、cp852、cp855、cp857、cp860、cp864、cp869、cp874、cp950)	コード・ページ 850 のバリエーション (cp858)、JIS-X0201 および JIS-X0208 用 IBM コード・ページ 932 (cp932)
コード・ページ 437、850 (cp437、cp850)	
CP936、中国語 (簡体字) (cp936)	PC (MS) 韓国語 (cp949)

JIS-X0208 用 DEC 漢字コード (deckanji)	NS-11643 用拡張 UNIX コード (euccns)
GB2312-80 用拡張 UNIX コード (eucgb)	JIS-X0201 および JIS-X0208 用拡張 UNIX コード (eucjis)
KSC-5601 用拡張 UNIX コード (eucksc)	P.R.C 標準 GB 18030-2000 (gb18030)
HP ギリシャ語 (greek8)	ISO_8859-15 Latin9、西欧言語 (iso15)
ISO_8859-2 Latin2、東欧言語 (iso88592)	ISO_8859-5 キリル語 (iso88595)
ISO_8859-6 アラビア語、ASMO-708 (iso88596)	ISO_8859-7 ギリシャ語、ELOT_928 (iso88597)
ISO_8859-8 ヘブライ語 (iso88598)	ISO_8859-9 Latin5、トルコ語 (iso88599)
ISO 8859-1 (iso_1)	KOI-8 キリル語 8 ビット (koi8)
カザフスタン、キリル語 (kz1048)	Macintosh 西欧ロケール (mac)
Macintosh キリル語 (mac_cyr)	Macintosh、東欧言語 (mac_ee)
Macintosh、西欧ロケール用ヨーロッパ言語のサポート付き (mac_euro)	Macintosh、ギリシャ語 (macgrk2)
Macintosh、トルコ語 (macturk)	Hewlett-Packard Roman 8 と Roman 9 (roman8、roman9)
JIS-X0201 および JIS-X0208 用 IBM/Microsoft コード (sjis)	タイ工業規格 (tis620)
HP トルコ語、8 ビット (turkish8)	UTF-8 形式でコード化された Unicode (utf8)

追加の言語モジュールは、次のとおりです。

- 中国語
- フランス語
- ドイツ語
- 日本語
- 韓国語
- ポーランド語
- ポルトガル語
- スペイン語
- タイ語

表 1-2 は、Open Server に含まれているライブラリとユーティリティを示します。

表 1-2 : Windows プラットフォーム用の Open Server ライブラリとユーティリティ

ライブラリ	<ul style="list-style-type: none"> • Server-Library • Client-Library • CS-Library • Bulk-Library • Net-Library • Common-Library • LDAP • SSL • Kerberos
ユーティリティ	<ul style="list-style-type: none"> • bcp • defncopy • dsedit • ocscfg • isql • certauth • certpk12 • certreq • pwdcrypt

SDK と Open Server のシステム稼働条件

この項では、以下の内容について説明します。

- [ハードウェアおよびソフトウェアの稼働条件](#)
- [必要なディスク領域](#)
- [コンパイラの稼働条件](#)

ハードウェアおよびソフトウェアの稼働条件

表 1-3 に、Open Server および SDK 製品が構築およびテストされているプラットフォーム、コンパイラ、サードパーティ製品を示します。

表 1-3 : Open Server と Open Client のプラットフォームの互換性の一覧

プラットフォーム	オペレーティング・システム・レベル	C および C++ コンパイラ	COBOL コンパイラ	Kerberos バージョン	LDAP (Light-weight Directory Access)	Secure Sockets Layer (SSL)	Perl のバージョン	PHP のバージョン	Python のバージョン
Microsoft Windows x86 32 ビット版	Windows 2008 R2 Service Pack 1 Windows XP Service Pack 1 (ODBC/OLE DB のみ)	Microsoft Visual Studio 2005 Service Pack 1 (C/C++)	MF SE 5.1	Cybersafe Trustbroker 4.0、MIT 2.6.4	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	該当なし	該当なし	該当なし
Microsoft Windows x86 64 ビット版	Windows 2008 R2 Service Pack 1 Windows XP Service Pack 1 (ODBC/OLE DB のみ)	Microsoft Visual Studio 2005 Service Pack 1 (C/C++)	MF SE 5.1	Cybersafe Trustbroker 2.1	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	アクティブ Perl 5.14.1 (DBI 1.616)	5.3.6	2.6、2.7、および 3.1 (DBAPI 2.0)

記号の説明：該当なしはそのプラットフォーム版でスクリプトが使用できない、または SDK と連動しない。

表 1-4 : Open Server と Open Client がサポートするプロトコルのシステム稼働条件

ハードウェア	オペレーティング・システム	サポートするプロトコル
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows x86 32 ビット版 	Microsoft Windows 2008 R2 Service Pack 1	以下のすべて： <ul style="list-style-type: none"> TCP/IP IPX/SPX Microsoft 名前付きパイプ
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows x86-64 64 ビット版 	Microsoft Windows 2008 R2 Service Pack 1	以下のすべて： <ul style="list-style-type: none"> TCP/IP IPX/SPX Microsoft 名前付きパイプ

注意 Microsoft 名前付きパイプをサポートするのは、Open Server、E/SQL、Client-Library、および DB-Library のみです。

動作確認されているプラットフォームの最新情報については、「[Web 上の Sybase 製品の動作確認情報](#)」(viii ページ)を参照してください。

表 1-5 は、ODBC と OLE DB のシステム稼働条件を示します。

表 1-5 : ODBC と OLE DB のシステム稼働条件

ハードウェア	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows x86 32 ビット版の場合 : 486 以上の Intel プロセッサを搭載した PC Microsoft Windows X86-64 64 ビット版の場合 : x64 アーキテクチャの PC
オペレーティング・システム	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows XP x86 Service Pack 1.0 以降 Microsoft Windows 2008 R2 x86, Service Pack 1 以降 Microsoft Windows XP x86-64 Service Pack 1.0 以降 Microsoft Windows 2008 R2 x86-64, Service Pack 1.0 以降 Microsoft Windows 7 x86-64
追加のパッチ	Microsoft .NET Framework 2.0 Service Pack 1 以降
Web ブラウザ	Internet Explorer 4.0 以降
その他のコンポーネント	Microsoft Data Access Component (MDAC)*

*MDAC は、Microsoft が頻繁に更新する Microsoft Windows オペレーティング・システムの一部です。最新バージョンを Microsoft web site (<http://www.microsoft.com>) からダウンロードしてください。

表 1-6 は、Adaptive Server ADO.NET Data Provider の稼働条件を示します。

表 1-6 : Adaptive Server ADO.NET Data Provider のシステム稼働条件

ハードウェア	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows x86 32 ビット版の場合 : 90MHz Intel Pentium プロセッサを搭載した PC Microsoft Windows x86-64 64 ビット版の場合 : x64 アーキテクチャの PC
オペレーティング・システム	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows XP x86 Service Pack 1.0 以降 Microsoft Windows 2008 R2 x86, Service Pack 1 以降 Microsoft Windows XP x86-64 Service Pack 1.0 以降 Microsoft Windows 2008 R2 x86-64, Service Pack 1.0 以降
追加のパッチ	Microsoft .NET Framework 2.0 Service Pack 1 以降

その他のコンポーネント	<ul style="list-style-type: none">• 2.157 バージョンの ADO.NET には、Microsoft Windows .NET 2.0、3.0、または 3.5 が必要• 4.157 バージョンの ADO.NET には、Microsoft .NET Framework v4.0 が必要 これをインストールしてから、SDK に含まれる Adaptive Server ADO.NET Data Provider をインストールしてください。
開発用サーバ	<ul style="list-style-type: none">• ADO.NET 2.157 では、.NET Framework SDK 2.0、3.0、および 3.5 がサポートされる• ADO.NET 4.157 では、Microsoft .NET Framework SDK 4.0 がサポートされる• ADO.NET 2.157 では、Microsoft Visual Studio .NET 2005、2008 および 2010 がサポートされる• ADO.NET 4.157 では、Microsoft Visual Studio .NET 2010 がサポートされる

Microsoft Data Access Component (MDAC) のインストール

Adaptive Server ODBC ドライバまたは Adaptive Server OLE DB プロバイダをインストールする前に、表 1-5 に示す Windows のシステム稼働条件を満たしてください。Microsoft のコンポーネントと Sybase 製品をこの順序でインストールします。

- 1 MDAC
- 2 Adaptive Server ODBC ドライバまたは Adaptive Server OLE DB プロバイダ

注意 Internet Explorer 5.0 または特定の Service Pack が適用されている Microsoft プラットフォームでは、MDAC が自動的にインストールされます。

必要なディスク領域

必要なインストール・ディスク領域の範囲は、約 155MB ～ 665MB であり、次の条件によって決まります。

- ・ インストールされる製品 – SDK または Open Server
- ・ インストールの種類 – 通常、フル、またはカスタム

表 1-7 は、SDK と Open Server のコンポーネントに必要なおおよそのディスク領域を示します。

表 1-7 : Microsoft Windows 2003 と Microsoft Windows XP に必要なディスク領域

コンポーネントとバージョン	必要なディスク領域
Additional Connectivity Language Modules	6MB
Open Client 15.7	140MB
Open Server 15.7	144MB
Embedded SQL/C 15.7	3MB
Embedded SQL/COBOL 15.7	4MB
jConnect for JDBC バージョン 7.07	15MB
Adaptive Server 拡張モジュール Python 版	1MB
Adaptive Server ODBC ドライバ	21MB
	注意 Microsoft Windows で ODBC を実行するには、MDAC が必要です。MDAC に必要な追加の領域は 5MB です。
Adaptive Server OLE DB Data Provider	21MB
	注意 Microsoft Windows で OLE DB を実行するには、MDAC が必要です。MDAC に必要な追加の領域は 15MB です。
Adaptive Server ADO.NET Data Provider	17MB
	注意 Microsoft .NET Framework に必要な追加の領域は 150MB です。

注意 *mdac_typ.exe* をインストールする場合は、クライアント・システムに 12MB の追加の領域が必要です。サーバ・システムの場合は 32MB をおすすめます。

フル・インストールの場合、必要な領域の合計はほぼ次のようになります。

- SDK の場合 - 247MB
- Open Server の場合 - 149MB

インストールに必要なディスク領域

インストールに十分なディスク領域があることを確認できるように、[インストール前の概要] ウィンドウには、インストールする各コンポーネントと、選択されたすべてのコンポーネントに必要な総ディスク領域が表示されます。十分なディスク領域がない状態で続行すると、対象ディレクトリにおける必要な領域と使用可能領域に関する情報を示す警告が表示されます。警告には、インストールを続行するために解放する必要がある最小領域も表示されます。または、インストールをキャンセルすることもできます。

注意 十分なディスク領域がない状態でインストーラを実行すると、別のインストール先を選択するよう指示するエラー・メッセージが表示される場合があります。

コンパイラの稼働条件

SDK および Open Server

Sybase では、次のコンパイラとリンカを SDK と Open Server 製品とともに使用できるかどうかをテストし、動作確認済みです。

- Microsoft Visual Studio 2005 64-Bit C/C++ Compiler バージョン 14.00.50727.762
- Microsoft Visual Studio 2005 32-Bit C/C++ Compiler バージョン 14.00.50727.762
- Microsoft Visual Studio 2005 64-Bit Executable Linker バージョン 8.00.50727.762
- Microsoft Visual Studio 2005 32-Bit Executable Linker バージョン 8.00.50727.762
- Micro Focus Net Express COBOL Compiler バージョン 5.1

Adaptive Server
ADO.NET

Adaptive Server ADO.NET Provider バージョン 2.157 は、Microsoft .NET Framework バージョン 2.0.50727 以降に含まれる次の .NET 言語コンパイラで動作確認されています。

- Microsoft Visual C/C++ .NET Compiler バージョン 13.10.3077
- Microsoft Visual C# .NET Compiler バージョン 7.10.6001.4
- Microsoft Visual Basic .NET Compiler バージョン 7.10.6001.4
- Microsoft Visual J# .NET Compiler バージョン 7.10.3077.0
- Microsoft Script .NET Compiler バージョン 7.10.3052

ADO.NET Provider 4.157 は、.NET Framework バージョン 4.0.030319 に含まれる .NET 言語コンパイラで動作確認されています。

Adaptive Server
ODBC および OLE DB

ODBC ドライバまたは OLE DB プロバイダを使用することを計画している場合、必要な C++ コンパイラは、Microsoft 32-bit C/C++ Optimizing Compiler バージョン 13.10.3077 です。

コンパイラのランタイム・ライブラリのインストール

SDK と Open Server には Microsoft Visual C++ ライブラリのコンポーネントが必要。Microsoft Windows で SDK と Open Server を使用するには、Microsoft Visual C++ 2005 Service Pack 1 再頒布可能パッケージをダウンロードしてインストールします。

- package for Microsoft Windows x86 32-bit
(<http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?FamilyID=200B2FD9-AE1A-4A14-984D-389C36F85647>) をダウンロードします。
- package for Microsoft Windows x86-64 64-bit
(<http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?FamilyID=EB4EBE2D-33C0-4A47-9DD4-B9A6D7BD44DA>) をダウンロードします。

SDK と Open Server のインストール前の作業

これらの手順は、Adaptive Server Suite CD に収録されている SDK 製品には適用されません。

注意 購入する各 Adaptive Server Suite には SDK 製品が含まれており、そのインストール手順は Adaptive Server Enterprise の『インストール・ガイド』に記載されています。

警告！ Sybase では、SDK 15.7 または Open Server 15.7 を、15.7 よりも前のバージョンの Adaptive Server が含まれるマシンにインストールしないことをおすすめします。これは、前のバージョンのサーバが起動しなくなるためです。ただし、これらの製品を同じマシン上で使用する必要がある場合は、「[15.7 より前の Adaptive Server と同じマシンへの SDK または Open Server 15.7 のインストール](#)」(19 ページ)に記載されている指示を参照してください。

❖ インストール前の準備

- 1 Microsoft Windows 用 SDK の『リリース・ノート』または Microsoft Windows 用 Open Server の『リリース・ノート』を読み、インストールする製品の最新情報を確認します。

最新のリリース・ノートは、次の Web サイトから入手できます。
Sybase Product Documentation Web site
(<http://www.sybase.com/support/techdocs>)

- 2 すべてのインストール作業を行うための “sybase” アカウントをシステム上に作成します。そのためには「管理者」権限が必要であるため、通常、システム管理者が設定します。
- 3 “sybase” ユーザとして、使用しているマシンにログインします。

すべてのファイルおよびディレクトリに対して、一貫した所有権と権限を保持するようにしてください。読み込み／書き込み／実行のパーミッションを持つ Sybase システム管理者である 1 人のユーザが、アンロード、インストール、アップグレード、設定のすべての作業を行ってください。

警告！ インストールを開始する前にパーミッションが設定されていることを確認してください。インストーラは、パーミッションをチェックしません。パーミッションがない場合、インストーラはログ・ファイルに例外を記録し続けます。

“sybase” ユーザには、ディスク・パーティションの最上位（ルート）またはオペレーティング・システム・ディレクトリから、特定の物理デバイスまたはオペレーティング・システム・ファイルまでの、Windows レジストリの更新のための読み込み／書き込み／実行の権限が必要です。

- 4 Sybase インストール・ディレクトリのディレクトリ・ロケーションを特定または作成し、そのロケーションに SDK および Open Server 製品をアンロードします。
- 5 アンロード先のディレクトリ・ロケーションに、このソフトウェアをアンロードするのに十分な領域があることを確認します。詳細については、「[必要なディスク領域](#)」(11 ページ)を参照してください。

インストール要件を確認、検証し、インストール前の作業を完了すると、SDK と Open Server をインストールする準備ができたこととなります。

注意 インストール時に、ウィンドウにビュー全体が表示されない場合は、ウィンドウを最小化してから最大化すると問題を解決できます。

この章では、SDK と Open Server ソフトウェアをインストール、アンインストール、およびダウングレードする方法について説明します。

トピック	ページ
SDK または Open Server インストーラの使用	17
SDK または Open Server のインストール	18
SDK または Open Server のアンインストール	27
SDK または Open Server のダウングレード	29
コマンド・ライン・オプション	30

SDK または Open Server インストーラの使用

この項では、SDK または Open Server のコンポーネントをインストールする方法について説明します。この項の手順は、次のことを前提としています。

- インストール対象のコンピュータが、「[SDK と Open Server のシステム稼働条件](#)」(7 ページ)に記載されている稼働条件を満たしている。
- 「[SDK と Open Server のインストール前の作業](#)」(14 ページ)に示されている SDK と Open Server の作業リストを完了している。

インストール・プログラムは、必要に応じて対象ディレクトリを作成し、選択したコンポーネントをすべてそのディレクトリにダウンロードします。

インストール・プログラムを使用して配布メディアから Sybase コンポーネントをインストールする場合のオプションは次のとおりです。

- 1 GUI (グラフィカル・ユーザ・インタフェース) モード – SDK または Open Server のインストーラ・インタフェースを使用してコンポーネントをインストールします。
- 2 コンソール・モード – コマンド・ライン環境でコンポーネントをインストールします。
- 3 応答ファイル – 応答ファイルを記録または作成します。応答ファイルを使用すると、サイレント・モードで SDK または Open Server をインストールできます。サイレント・インストールでは、ユーザとの対話を必要とせずに製品をインストールできます。複数のマシンに同一インストールを行う場合にはこの方法が便利です。

各オプションについては、以降の項で説明します。

注意 インストール中に問題が発生した場合は、インストール・ログ・ファイルをチェックして、インストール処理の記録を確認します。このファイルは `%SYBASE%\log\<product_name>.log` にあります。`%SYBASE%` は、SDK または Open Server のインストール・ディレクトリです。

SDK または Open Server のインストール

この作業の最後に、製品のインストール状態を確認できます。ただし、製品を使用するには、追加設定を行う必要もあります。「[コンポーネントの設定](#)」(32 ページ) を参照してください。

警告! メモリにロードされていて使用中の Sybase の実行ファイルまたは DLL ファイルをインストール・プログラムが上書きしようとする、インストール・プログラムは警告を表示しないで終了します。この状況が発生した場合は、実行している Sybase 製品を終了し、インストールを再開します。

インストール・プログラムは、インストール作業の一環として、PATH 環境変数などの必要なすべての環境変数を自動的に設定し、さらに、手動で変更できる環境変数を含む *.bat* ファイルをアンロードします。

注意 現在のインストールに戻す必要がある場合は、システムをバックアップしてください。

15.7 より前の Adaptive Server と同じマシンへの SDK または Open Server 15.7 のインストール

SDK または Open Server 15.7 を 15.7 より前のバージョンの Adaptive Server と同じマシンの別のディレクトリにインストールし、前のバージョンが影響を受けないようにするには、Adaptive Server をサーバまたはサービスとして実行します。

Adaptive Server の起動

Adaptive Server と関連サーバは、手動で起動することも、再起動のたびに自動的に起動することもできます。

❖ Adaptive Server と関連サーバを手動で起動する

- 1 Adaptive Server と関連サーバの自動起動を無効にします。そのためには、コントロール・パネルの [サービス] をクリックし (アクセス方法については、Microsoft Windows のマニュアルを参照)、サーバの [スタートアップの種類] プロパティを [自動] から [無効] に変更します。
- 2 SYBASE、SYBASE_OCS、INCLUDE、PATH の現在の値をテキスト・ファイルに保存します。
- 3 以降のインストールの項の説明に従って、SDK または Open Server のインストールを完了します。
- 4 コントロール・パネルの [システム] をクリックします。 [詳細設定] タブを開き、 [環境変数] をクリックします。環境変数 SYBASE、SYBASE_OCS、INCLUDE、PATH の値をテキスト・ファイルに保存した値 (手順 2) で編集します。
- 5 次の手順に従って、サーバを手動で起動します。
 - コマンド・プロンプトを開き、15.7 より前のバージョンの ASE SYBASE ディレクトリに変更する。

- *SYBASE.BAT* ファイルを実行する。
- 次のコマンドを使用して各サーバを起動する。

```
startserver -f RUNfile
```

RUNfile は、各サーバに関連付けられているバッチ・ファイルです。

❖ Adaptive Server と関連サーバをサービスとして自動的に起動する

- 1 Adaptive Server と関連サーバの自動起動を無効にします。そのため、コントロール・パネルの [サービス] をクリックし、サーバの [スタートアップの種類] プロパティを [自動] から [無効] に変更します。
- 2 SYBASE、SYBASE_OCS、INCLUDE、PATH の現在の値をテキスト・ファイルに保存します。
- 3 以降のインストールの項の説明に従って、SDK または Open Server のインストールを完了します。
- 4 コントロール・パネルの [システム] をクリックします。[詳細設定] タブを開き、[環境変数] をクリックします。環境変数 SYBASE、SYBASE_OCS、INCLUDE、PATH の値をテキスト・ファイルに保存した値 (手順 2 を参照) に変更します。
- 5 サーバをサービスとして自動的に起動します。コントロール・パネルの [サービス] をクリックし、サーバの [スタートアップの種類] プロパティを [無効] から [自動] に変更します。

SDK または Open Server 15.7 のバージョン 15.5 ディレクトリへのインストール

SDK または Open Server 15.7 は、15.5 バージョンの置き換え用バージョンであるため、SDK または Open Server 15.7 を既存の SDK または Open Server 15.5 ディレクトリにインストールすると、15.7 のファイルによって 15.5 のファイルが上書きされます。その他のマイグレーション手順は必要ありません。

GUI モードでのインストール

Sybase では、SDK または Open Server のインストールに GUI モードを使用することをおすすめします。

❖ GUI モードでのインストール

- 1 SDK または Open Server の CD を CD ドライブに挿入します。両方の製品をインストールするには、該当の CD を使用して一方の製品をインストールした後、もう一方の製品の CD を使用してこの手順を繰り返します。

インストーラが自動的に起動します。起動しない場合は、[スタート]-[ファイル名を指定して実行]を選択して次のように入力します。x: は CD ドライブです。

```
x:¥setup.exe
```

インストーラを実行するのに十分なテンポラリ領域がない場合は、環境変数 TMP を *directory_name* に設定してから、再度実行します。*directory_name* は、インストール・プログラムがテンポラリ・インストール・ファイルを書き込むテンポラリ・ディレクトリの名前です。

注意 *directory_name* を指定する場合は、そのフル・パスを指定します。

- 2 [概要] ウィンドウで、[次へ]をクリックしてインストールを進めます。
- 3 ライセンスと著作権の契約を読みます。インストールを実行している地域を選択すると、その地域に適した契約が表示されます。[指定したインストール地域における Sybase のライセンス条件に同意します]を選択し、[次へ]をクリックします。
続行するには、ライセンスと著作権の契約に同意してください。
- 4 [インストール・フォルダを選択します] ウィンドウで、[次へ]をクリックしてデフォルトのインストール・ディレクトリを受け入れるか、[選択]をクリックしてディレクトリを参照し、インストールする場所を選択します。次のいずれかの動作が発生します。
 - 選択したインストール・ディレクトリが存在しない場合は、次のメッセージが表示されます。

ディレクトリ <*directory_name*> は存在しません。作成しますか？

[はい]をクリックします。

- インストール・ディレクトリが存在する場合は、次のメッセージが表示されます。

警告：既存のディレクトリへのインストールを選択しました。このインストールを続行する場合、インストールするように選択した古いバージョンがこのディレクトリで検出されると、すべて置換されます。

続行する場合で、古い製品が SDK または Open Server のインストーラでインストールされていない場合（たとえば、15.7 より前のバージョンの Adaptive Server をインストールした場合）は、インストーラは共通のファイルを上書きします。

DLL の上書きを確認するメッセージが表示されたら（インストールしようとしている DLL が既存の DLL よりも古い場合にかぎり表示される）、すべてに対し [はい] を選択し、異なるバージョンの DLL が混在しないようにします。インストーラは、ファイルの日付のみをチェックし、実際のバージョンはチェックしません。

5 次の3つのインストールの種類の内いずれかを選択します。

- 通常（デフォルト）— ほとんどのユーザに必要な SDK コンポーネントまたは Open Server コンポーネントをインストールします。このインストールは、アメリカ英語の言語モジュールと、そのモジュールでサポートされる文字セットのみをインストールします。

インストールの前に、インストールされるコンポーネントと必要な総ディスク領域が表示されます。「[SDK と Open Server のコンポーネント](#)」(1 ページ) を参照してください。

- フル CD からサポートされる全言語モジュールを含むすべての SDK コンポーネントまたは Open Server コンポーネントをインストールします。

インストールの前に、インストールされるコンポーネントと必要な総ディスク領域が表示されます。インストールできる言語モジュールのリストについては、「[SDK と Open Server のコンポーネント](#)」(1 ページ) を参照してください。

- カスタム – インストールする SDK または Open Server のコンポーネントもしくは製品の機能を選択できます。表示される次のウィンドウで、インストールするコンポーネントを選択できます。

注意 選択したコンポーネントのインストールにその他のコンポーネントが必要な場合、そのコンポーネントは自動的にインストールされます。

インストールの種類を選択したら、[次へ]をクリックします。

[インストール前の概要] ウィンドウには、インストールされるすべての製品機能またはコンポーネントと、選択したすべての機能のインストールに必要な総ディスク領域が表示されます。

- 6 正しいインストールの種類を選択し、プロセスの完了に十分なディスク領域があることを確認します。[インストール]をクリックします。

インストールしようとしているコンポーネントに対し十分なハード・ディスク空き領域がない場合は、インストールを停止するエラー・メッセージが表示されます。

インストール・プログラムによって、すべてのコンポーネントが CD からアンロードされ、処理の進行状況が表示されます。

注意 ESD#3 のバージョン 15.7 以降、サンプル・ファイル、文書ファイル、デバッグ・ファイルのインストールの省略を選択することができます。デフォルトでは、Open Server と SDK をインストールするときに、これらのファイルがインストールされます。これらのファイルのインストールを省略するには、GUI モードの場合は `-DPRODUCTION_INSTALL=TRUE` インストーラ・コマンド・ライン引数を使用します。

コンソール・モードでのインストール

グラフィカル・ユーザ・インタフェース (GUI) を使用しないでインストーラを実行するには、コンソール・モードでインストーラを起動します。インストーラが自動的に起動する場合は、[キャンセル] をクリックして GUI インストールをキャンセルし、端末またはコンソールから `setup` プログラムを起動します。

❖ コンソール・モードでのインストール

コンポーネントをコンソール・モードでインストールする手順は、コマンドを使用してコマンド・ラインからインストール・プログラムを実行する点と、次のようにテキストを入力してインストール・オプションを選択する点を除き、「[GUI モードでのインストール](#)」(21 ページ) で説明した手順と同じです。

- 1 コマンド・ラインで次のように入力します。

```
setupConsole.exe -i console
```

インストール・プログラムが起動します。

- 2 インストール作業の流れは GUI インストールの場合と同じです。ただし、表示は端末ウィンドウに出力され、応答はキーボードを使用して入力します。残りのプロンプトに従って、**Software Developer' s Kit** または **Open Server** ソフトウェアをインストールします。

コマンド・ライン・オプションの完全なリストについては、[表 2-1 \(30 ページ\)](#) を参照してください。

注意 ESD#3 のバージョン 15.7 以降、サンプル・ファイル、文書ファイル、デバッグ・ファイルのインストールの省略を選択することができます。デフォルトでは、**Open Server** と **SDK** をインストールするときに、これらのファイルがインストールされます。これらのファイルのインストールを省略するには、コンソールモードの場合は `-DPRODUCTION_INSTALL=TRUE` インストーラ・コマンド・ライン引数を使用します。

応答ファイルを使用したインストール

サイレント（「無人」）インストールを実行するには、インストーラを実行し、指定したインストール設定が含まれる応答ファイルを指定します。

応答ファイルの作成

GUI モードまたはコンソール・モードでインストールするときに応答ファイルを作成するには、`-r` コマンド・ライン引数を指定します。`-r` 引数を指定することで、インストール・ウィザードのプロンプトへの応答が記録され、インストール・ウィザードの終了時に応答ファイルが作成されます。応答ファイルは編集可能なテキスト・ファイルであり、後続のインストールで使用する前に応答を変更できます。

GUI インストール時に応答ファイルを生成するには、次のコマンドを実行します。

```
setupConsole.exe -r responseFileName
```

`responseFileName` は、応答ファイル用に選択する次のようなファイル名の絶対パスです。

```
C:\¥SDK¥ResponseFile.txt
```

注意 指定したディレクトリ・パスがすでに存在している必要があります。

サイレント・モードでのインストール

サイレント（無人）インストールでは、ユーザによる操作は伴いません。すべてのインストール設定情報が応答ファイルから取得されます。これは、複数の同一インストールを行う場合、またはインストール処理を完全に自動化する場合に役立ちます。

サイレント・モードでインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
setupConsole.exe -f responseFileName -i silent  
-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true
```

responseFileName は、選択したインストール・オプションを含むファイル名の絶対パスです。

注意 サイレント・モードでのインストール時に、Sybase ライセンス契約に同意する必要があります。次のいずれかの方法を使用できます。

- 次のオプション `-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true` をコマンド・ライン引数に含める。
- 応答ファイルを編集して、プロパティ `AGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true` を含める。

注意 ESD#3 のバージョン 15.7 以降、サンプル・ファイル、文書ファイル、デバッグ・ファイルのインストールの省略を選択することができます。デフォルトでは、Open Server と SDK をインストールするときに、これらのファイルがインストールされます。これらのファイルのインストールを省略するには、`-DPRODUCTION_INSTALL=TRUE` インストーラ・コマンド・ライン引数を使用するか、またはサイレント・モードでのインストール時に応答ファイルの `PRODUCTION_INSTALL=TRUE` プロパティを使用します。

GUI 画面がないことを除けば、インストーラのすべてのアクションは同じです。サイレント・モードのインストール結果は、GUI モードで同じ応答を行った場合とまったく同じになります。

警告！ Sybase では、サイレント・インストールの実行時に、フォアグラウンドで実行される `setupConsole.exe` 実行可能ファイルを使用することをおすすめします。通常の `setup.exe` 実行可能ファイルはバックグラウンドで実行されるため、インストールが異常終了したという印象をユーザに与え、サイレント・インストールを使用して再度インストールが試行される結果になります。複数のインストールを同時に実行すると、Windows レジストリが破壊され、オペレーティング・システムを再起動できなくなることがあります。

SDK または Open Server のアンインストール

インストーラには、インストールした Sybase コンポーネントを削除する `uninstall` 機能があります。

アンインストールを実行する前に、次の点を考慮する必要があります。

- 複数の Sybase 製品によって共有コンポーネントが同じディレクトリにインストールされている場合、その共有コンポーネントはすべての Sybase 製品をアンインストールするまで削除されません。

警告！ SDK または Open Server のインストーラ以外のインストール・プログラムを使用してインストールされた他の Sybase 製品を含むディレクトリに Open Server および SDK が存在する場合は、これらをアンインストールしないでください。アンインストールを実行すると、Sybase 製品で共有されているコンポーネントが削除され、他の製品の動作に影響を与える場合があります。

- `uninstall` 機能は、インストール CD からロードされたファイルのみ削除します。ログ・ファイルや設定ファイルなどの一部の Sybase ファイルは、管理目的で削除されずに残ります。すべての製品をディレクトリからアンインストールした場合、残っている設定ファイルが必要ないときは、そのディレクトリを手動で削除できます。

アンインストール手順

`uninstall` プロシージャは、GUI モードまたはコンソール・モードを使用して呼び出すことができます。

Sybase ソフトウェアをアンインストールする前に、すべての Sybase アプリケーションとプロセスを停止します。「管理者」権限を持つアカウントを使用してマシンにログインし、アンインストールするコンポーネントの他のすべてのプロセスを停止します。

❖ GUI モードでのアンインストール

1 [スタート]-[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除]を選択します。

2 削除する製品を選択します。

3 [変更と削除]をクリックしてソフトウェアを削除します。

また、コマンド・ラインからアンインストールするには、次のコマンドを入力します (SDK の場合)。

```
%SYBASE%\sybuninstall¥SDKSuite¥uninstall.exe
```

Open Server の場合は、次のコマンドを入力します。

```
%SYBASE%\sybuninstall¥OpenServerSuite¥uninstall.exe
```

アンインストール・ウィザード・ウィンドウが表示されます。

4 [次へ]をクリックします。

[アンインストール・オプション]ウィンドウが表示されます。

5 次のいずれかのオプションを選択します。

- 完全アンインストール — SDK または Open Server のすべての機能およびコンポーネントを完全に削除します。インストール後に作成されたファイルやフォルダは影響を受けません。
- 特定の機能のアンインストール — SDK または Open Server の特定の機能をアンインストールします。

このオプションを選択すると、[製品機能を選択します]ウィンドウが表示され、アンインストールする機能を選択できます。

6 [次へ]をクリックします。[アンインストール完了]ウィンドウが表示され、削除できない項目が示されます。

注意 同じディレクトリに他の製品がインストールされておらず、インストーラによってインストールされたものではないファイルがそのディレクトリに含まれている場合は、そのファイルを削除するかどうかを確認するウィンドウが表示されます。

7 [完了]をクリックします。

❖ コンソール・モードでのアンインストール

- 1 %SYBASE%ディレクトリに移動し、DOS ウィンドウ・プロンプトで次のいずれかのコマンドを入力します。

SDK の場合

```
%SYBASE%\sybuninstall\SDKSuite\uninstall.exe -i console
```

Open Server の場合

```
%SYBASE%\sybuninstall\OpenServerSuite\uninstall.exe -i console
```

uninstall プログラムが起動します。

- 2 uninstall プログラムの流れは通常の GUI アンインストールの場合と同じです。ただし、表示は端末ウィンドウに出力され、応答はキーボードを使用して入力します。残りのプロンプトに従って、Software Developer's Kit または Open Server ソフトウェアをアンインストールします。

コマンド・ライン・オプションの完全なリストについては、[表 2-1 \(30 ページ\)](#) を参照してください。

SDK または Open Server のダウングレード

SDK または Open Server 15.7 を前のバージョンのソフトウェアにダウングレードするには、次の手順に従います。

- 1 バージョン 15.7 をアンインストールします。既存のバージョン 15.7 のディレクトリに前のバージョンのソフトウェアをインストールすることはできません。
- 2 前のバージョンのソフトウェアをインストールします。前のソフトウェア・インストールには ESD が含まれていないため、別途インストールする必要があります。

コマンド・ライン・オプション

表 2-1 は、インストーラまたはアンインストーラの実行時に使用できるコマンド・ライン・オプションを示します。

表 2-1 : コマンド・ライン・オプション

オプション	目的
-i console	コンソール <code>interface</code> モードを使用する。このモードでは、インストール中のメッセージは Java コンソールに表示され、ウィザードはコンソール・モードで実行される。
-D	カスタム変数およびプロパティを渡す。たとえば、インストーラの実行時にデフォルトのインストール・ディレクトリを上書きするには、次のように入力する。 <pre><install_launcher_dir> -DUSER_INSTALL_DIR=E:¥Sybase</pre>
-i silent	製品をサイレント・モードでインストールまたはアンインストールする。インストール/アンインストールはユーザとの対話なしで、「サイレント」に実行される。
-i swing	製品を GUI モードでインストールまたはアンインストールする。
-r	応答ファイルと参照を生成する。
-f	応答ファイルを参照する。
-l	インストーラのロケールを設定する。
-¥?	インストーラのヘルプを表示する。

注意 コマンド・ライン・オプションを使用する場合は、`responseFileName` のファイル名を含むフル・パスを指定します。

インストール後の作業

この章では、Open Client、Open Server、jConnect for JDBC の設定など、インストールの完了後に実行する作業について説明します。

トピック	ページ
環境変数の設定	31
Python 用サンプル・スクリプトの実行	31
コンポーネントの設定	32
jConnect for JDBC のインストール後の作業	33

環境変数の設定

インストール時に、インストーラによって、環境変数が格納されている `%SYBASE%\%SYBASE%.bat` ファイルが自動的にアンロードされます。`SYBASE.bat` ファイル内の変数を使用して、コンポーネントの RUN 環境を修正します。

Python 用サンプル・スクリプトの実行

インストール後に、Python 用の Adaptive Server 拡張モジュールのサンプル・スクリプトを実行します。

❖ Adaptive Server Enterprise (拡張モジュール Python 版)

- 1 `%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\samples\python` ディレクトリにある Python のサンプルを特定します。
- 2 Adaptive Server が起動し、動作していることを確認します。
- 3 PYTHONPATH 環境変数または Python 変数 `sys.path` が次のディレクトリ・パス (各バージョンの Adaptive Server Python 拡張モジュールがインストールされるデフォルト・ディレクトリ) のいずれか 1 つに設定されていることを確認します。

表 3-1 : PYTHONPATH の設定

Python のバージョン	デフォルト・インストール・パス
2.6	<code>\$\$SYBASE_OCSpythonpython26_64dll</code>
2.7	<code>\$\$SYBASE_OCSpythonpython27_64dll</code>
3.1	<code>\$\$SYBASE_OCSpythonpython31_64dll</code>

4 サンプルを実行します。

```
python test.py
```

詳細については、『Python 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

コンポーネントの設定

次に、Open Client/Open Server コンポーネントの接続および設定方法についての情報を示します。

- 『Open Client/Server 設定ガイド Windows 版』の指示に従って、Open Client または Open Server の各コンポーネントを設定してください。
- Adaptive Server ADO.NET Data Provider の設定と使用の方法については、『Adaptive Server Enterprise ADO.NET Data Provider ユーザーズ・ガイド』の「第 1 章 Adaptive Server Enterprise ADO.NET Data Provider の理解と配備」を参照してください。
- Windows および Linux プラットフォームでの Adaptive Server ODBC ドライバの接続、設定、使用については、Adaptive Server Enterprise ODBC ドライバの各プラットフォーム用の『ユーザーズ・ガイド』の「第 2 章 データベースへの接続」を参照してください。
- Microsoft Windows プラットフォームで Adaptive Server のデータのアクセスに OLE DB プロバイダを接続して使用方法については、Adaptive Server Enterprise OLE DB プロバイダの Microsoft Windows 用の『ユーザーズ・ガイド』の「第 2 章 データベースへの接続」を参照してください。
- Python 用 Adaptive Server 拡張モジュールの設定と使用については、『Python 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

- jConnect for JDBC 7.07 については、「[jConnect for JDBC のインストール後の作業](#)」の項を参照してください。

jConnect for JDBC のインストール後の作業

jConnect for JDBC 7.07 には、次のインストール後の作業があります。

JDBC_HOME の設定

JDBC_HOME は、jConnect インストール・ディレクトリを示します。次に例を示します。

インストール・ディレクトリが `C:\Sybase` の場合は、JDBC_HOME を次のように設定します。

```
C:\Sybase\jConnect-7_0
```

CLASSPATH の設定

CLASSPATH は jConnect ランタイム・クラスおよび Java 6 以降の `jar` ファイルのロケーションです。この項では、使用する JDK と jConnect のバージョンに応じた CLASSPATH の設定について説明します。

Java 6 以降での
jConnect 7.07 の使用

jConnect 7.07 を Java 6 以降で使用するには、CLASSPATH 環境変数に次のパスを追加します。

```
%JDBC_HOME%\classes\jconn4.jar
```

サンプルまたは TDS
トンネリング・サーブ
レットの実行

サンプルまたは TDS トンネリング・サーブレットを実行するには、CLASSPATH 環境変数に次を追加します。

```
%JDBC_HOME%\classes\jconn4.jar;%JDBC_HOME%\classes
```

注意 Java 6 以降が実行されている環境で jConnect 7.07 を使用してください。

さらに、定義済みのアプリケーション・クラスのロケーションも CLASSPATH に指定してください。

Firefox の使用による CLASSPATH の制限

Firefox を使用する場合、CLASSPATH 環境変数の設定方法にいくつかの制限が適用されます。

Java 仮想マシンのセキュリティ・マネージャでは、サーバがローカル・システムで動作する場合でも、ローカル・ファイル・システムにインストールされた jConnect はサーバへの接続を作成できません。これは、jConnect を使用するアプレットの実行に Firefox を使用する場合に問題になります。

jConnect をロードしてサーバへの接続を作成する必要がある場合、Firefox は jConnect クラスを検出するために、環境に定義されている CLASSPATH を探します。ローカル jConnect インストール・ディレクトリを示すように定義した CLASSPATH が検出されると、サーバからではなくローカル・ファイル・システムから直接 jConnect をロードして、接続を作成しようとします。このため、セキュリティ・エラーが発生して接続が失敗します。

Firefox を使用して jConnect アプレットを実行する場合は、CLASSPATH をローカル jConnect ディレクトリに設定しないでください。

ストアド・プロシージャのインストール

jConnect を正しく機能させるには、アプリケーションの接続先の Adaptive Server Enterprise または Adaptive Server R Anywhere のデータベースにストアド・プロシージャとテーブルをインストールする必要があります。jConnect には、必要なストアド・プロシージャとテーブルをインストールする次のスクリプトが用意されています。

- *sql_server.sql* – Adaptive Server 12.0 よりも前のバージョンにストアド・プロシージャをインストールします。
- *ssql_server12.sql* – Adaptive Server 12.0.x にストアド・プロシージャをインストールします。
- *sql_server12.5.sql* – Adaptive Server 12.5.x にストアド・プロシージャをインストールします。
- *sql_server15.0.sql* – Adaptive Server 15.0.x から 15.5.x にストアド・プロシージャをインストールします。
- *sql_server15.7.sql* – Adaptive Server 15.7 以降にストアド・プロシージャをインストールします。
- *sql_asa.sql* – SQL Anywhere[®] 9.x にストアド・プロシージャをインストールします。

- *sql_asa10.sql* – SQL Anywhere 10.x にストアド・プロシージャをインストールします。
- *sql_asa11.sql* – SQL Anywhere 11.x にストアド・プロシージャをインストールします。

注意 Adaptive Server 12.5.3 以降または Adaptive Server Anywhere 9.0.2 以降を使用している場合、これらのスクリプトはすでにサーバにインストールされた状態になっています。これらのスクリプトのインストールが必要になるのは、Adaptive Server に同梱されているドライバよりも新しいバージョンのドライバを所有している場合のみです。また、下位互換性を維持するために、*sql_server.sql* および *sql_server12.sql* はそれぞれ Adaptive Server 11.9.2 および 12.0 に含まれています（これらのバージョンは現在はサポートされていません）。

❖ ストアド・プロシージャ・インストール・スクリプトの実行

- 1 JAVA_HOME、JDBC_HOME、CLASSPATH の各環境変数が設定されていることを確認します。
- 2 IsqlApp サンプル・アプリケーションを使用します。IsqlApp の詳細については、「[Adaptive Server データベースへのストアド・プロシージャのインストール](#)」を参照してください。

❖ Adaptive Server データベースへのストアド・プロシージャのインストール

- DOS プロンプト・ウィンドウから `%JDBC_HOME%\classes` ディレクトリに移動し、次のように入力します。
 - Adaptive Server Enterprise バージョン 15.x の場合：

```
java IsqlApp -U sa -P password -S jdbc:sybase:
Tds:[hostname]:[port] -I %JDBC_HOME%\sp\sql_server15.0.sql -c go
```

- Adaptive Server Enterprise バージョン 12.5.x の場合：

```
java IsqlApp -U sa -P password -S jdbc:sybase:
Tds:[hostname]:[port] -I %JDBC_HOME%\sp\sql_server12.5.sql -c go
```

❖ SQL Anywhere または Adaptive Server Anywhere データベースへのストアド・プロシージャのインストール

- DOS プロンプト・ウィンドウから `%JDBC_HOME%\classes` ディレクトリに移動し、次のように入力します。

```
java IsqlApp -U dba -P password -S jdbc:sybase:
Tds:[hostname]:[port] -I %JDBC_HOME%\sp\sql_asa.sql -c go
```

インストール内容の確認

jConnect のインストールが完了したら、この項に示す内容を確認してください。

パッケージ

jConnect バージョン 7.07 では、次のパッケージが、*jconn4.jar* ファイル (リリース・ビルドの場合) および *jconn4d.jar* ファイル (デバッグ・ビルドの場合) に含まれています。

- com.sybase.jdbc4.jdbc
- com.sybase.jdbc4.tds
- com.sybase.jdbc4.timedio
- com.sybase.jdbc4.utils
- com.sybase.jdbcx

jConnect ドライバ com.sybase.jdbc4.jdbc.SybDriver は com.sybase.jdbc4.jdbc パッケージに含まれています。

ディレクトリとファイル

表 3-2 に、*jconnect7_0* ディレクトリの内容を示します。

表 3-2 : *jconnect7_0* ディレクトリ内のディレクトリとファイル

名前	種類	説明
<i>classes</i>	サブディレクトリ	次の jConnect 7.0 コンポーネントを含む。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>jconn4.jar</i> ファイル。jConnect 7.0 のクラスを含む。 • <i>sample2</i> サブディレクトリ。jConnect 7.0 のサンプル・アプレットとサンプル・アプリケーション用のクラス・ファイルを含む。 • <i>gateway2</i> サブディレクトリ。TDS トンネリング・サーブレットのコンパイルで使用される。
<i>devclasses</i>	サブディレクトリ	<i>jconn4.jar</i> と同じ jConnect 7.0 コンポーネントを含む <i>jconn4d.jar</i> ファイルを含む。ただし、デバッグ・モードがオンになる。

名前	種類	説明
<i>docs</i>	サブディレクトリ	次のものを含む。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>en</i> サブディレクトリ - 英語版 javadoc マニュアルを含む • <i>en/progref</i> サブディレクトリ - HTML 形式と PDF 形式の『jConnect for JDBC プログラマーズ・リファレンス』を含む • <i>en/installdocs</i> サブディレクトリ - HTML 形式と PDF 形式の『jConnect for JDBC インストール・ガイド』を含む
<i>gateway2</i>	サブディレクトリ	TDS トンネリング・サープレットのソース・コードを含む。
<i>sample2</i>	サブディレクトリ	サンプル Java アプリケーションのソース・コードを含む。
<i>sp</i>	サブディレクトリ	関数のエスケープ用のストアド・プロシージャと DatabaseMetaData メソッドをデータベース・サーバにインストールする次の isql スクリプトを含む。使用できるスクリプトのリストについては、「 ストアド・プロシージャのインストール 」(34 ページ)を参照してください。
<i>tools</i>	サブディレクトリ	Microsoft Windows で <i>sql.ini</i> ファイルを人間が判読できるフォーマットに解析するための perl スクリプト (<i>decode-tli</i>) を含む。
<i>netimpct.gif</i>	グラフィック・ファイル	jConnect のグラフィックを含む。
<i>index.html</i>	HTML ファイル	jConnect マニュアルと jConnect サンプルへのリンクを含む。

JDBC のサンプルと仕様

JDBC のサンプルと仕様については、『jConnect for JDBC プログラマーズ・リファレンス』を参照してください。

jConnect インストール環境のテスト

jConnect をインストールしたら、Version プログラムを実行してインストール環境をテストします。

注意 Version プログラムは、Sybase がインターネット上で提供しているデモ用データベースに接続します。Version プログラムを正しく実行するには、インターネットにアクセスできる環境が必要です。または、プログラム実行時に [-U *username*] [-P *password*] [-S *servername*] コマンドで、使用するデータベースを明示的に指定してください。

❖ インストール環境のテスト

- 1 Windows 用の DOS プロンプトで、*JDBC_HOME* ディレクトリに変更します。
- 2 サンプル・プログラムを実行できるように *CLASSPATH* 変数が設定されていることを確認し (詳細については、「[CLASSPATH の設定](#)」(33 ページ) を参照)、次のテキストを入力します。

```
java sample2.SybSample Version
```

SybSample ウィンドウが表示されます。プログラムの実行に応じて、ウィンドウの上部の [Running Sybase Sample] テキスト・ボックスに *Version* のソース・コードが表示されます。真ん中のテキスト・ボックス ([Sample Output]) にはバージョン情報が表示されません。次に例を示します。

```
Using JDBC driver version 7.0  
jConnect (TM) for JDBC(TM)/7.0...
```

- 3 出力は、次のいずれかになります。
 - 上記のメッセージが [Sample Output] テキスト・ボックスに表示された場合は、jConnect が正しくインストールされています。
 - 上記のメッセージは表示されたが [Running Sybase Sample] テキスト・ボックスに *Version* のソース・コードが表示されず、ウィンドウの下部の [Status] テキスト・ボックスに次のメッセージが表示される場合、jConnect は正しくインストールされていますが、*Version* プログラムを実行するコマンドを *JDBC_HOME* 内の *sample2* ディレクトリ以外のロケーションから入力した可能性があります。

```
java.io.FileNotFoundException:Version.java
```

- SybSample ウィンドウが表示されず、次のエラー・メッセージが表示される場合、*CLASSPATH* が正しく設定されているかどうかを確認してください。

```
クラス sample2.SybSample が見つかりません
```

- SybSample ウィンドウが表示されず、次のいずれかのエラー・メッセージが表示される場合、パスに *JDK* ホーム・ディレクトリの *bin* サブディレクトリが指定されていることを確認してください。

“指定した名前は内部または外部コマンドとして認識されません”

“コマンドまたはファイル名が正しくありません”

- 4 インストールが正しく行われたことを確認したら、[Close] をクリックして SybSample ウィンドウを閉じます。

jConnect バージョンの確認

DOS プロンプト・ウィンドウを使用して、`%JDBC_HOME%\classes` ディレクトリに移動し、次のように入力します。

```
java -jar jconn4.jar
```

次のようなバージョン文字列が表示されます。

```
jConnect (TM) for JDBC(TM)/7.07 GA(Build  
26666)/P/EBF19485/JDK 1.6.0/jdbcmain/Wed Aug 31  
03:14:04 PDT 2011
```

この場合、バージョンは 7.07 です。文字列 "EBF" の後に続く 5 桁の数字は、jConnect の正確なバージョンを示します。この数字は、新しくリリースされた EBF ほど大きくなります。

Sybase ダウンロード Web サイトで jConnect のバージョンの更新を定期的に確認し、最新バージョンをダウンロードすることをおすすめします。

jConnect のアップグレード

詳細については、『jConnect for JDBC プログラマーズ・リファレンス』の「jConnect アプリケーションへのマイグレート」を参照してください。

索引

A

- Adaptive Server ADO.NET Data Provider
 - SDK コンポーネント 3
 - システム稼働条件 9
- Adaptive Server servers
 - 起動 19
- Adaptive Server サーバ
 - 自動起動 20
 - 手動による起動 19

C

- CLASSPATH 環境変数 33
- Firefox での制限事項 34

D

- DatabaseMetaData メソッド
 - ストアド・プロシージャ 34

F

- Firefox
 - CLASSPATH の制限 34

G

- GUI インストール・モード 17, 21

J

- jConnect
 - インストール内容 36
- jConnect for JDBC
 - SDK コンポーネント 3
- jConnect のインストール
 - インストール環境のテスト 37
- jConnect バージョンの確認 39
- JDBC 2.0 のサンプル 37
- JDBC_HOME 環境変数 33

M

- MDAC
 - ODBC と OLEDB のシステム稼働条件 9

O

- ODBC
 - システム稼働条件 9
- OLEDB
 - システム稼働条件 9
- Open Client
 - SDK のコンポーネント 1, 5
- Open Client Embedded SQL/C 1
- Open Client Embedded SQL/COBOL 2
- Open Server
 - アンインストール 27
 - 言語モジュール・コンポーネント 5
 - コンポーネント 5
 - サポートするプロトコル 8
 - サンプル・プログラム・コンポーネント 5
 - 製品の概要 5
 - ドライバ・コンポーネント 5
 - 必要なディスク領域 11
- Open Server コンポーネントの概要 5

索引

P

PATH 環境変数 19
PYTHONPATH 環境変数 31

R

RUN 環境変数 31

S

SDK 1
 アンインストール 27
SDK コンポーネントの概要 1
Software Developer's Kit (SDK)
 Adaptive Server ADO.NET Data Provider 3
 jConnect for JDBC コンポーネント 3
 Open Client Embedded SQL/C プリコンパイラ・
 コンポーネント 1
 Open Client Embedded SQL/COBOL
 プリコンパイラ 2
 Open Client コンポーネント 1, 5
 言語モジュール・コンポーネント 2
 サポートするプロトコル 8
 サンプル・プログラム 1, 5
 ドライバ 1, 5
 必要なディスク領域 11
sybase アカウント
 作成 14
SYBASE.bat ファイル 31

V

version プログラム
 正常に終了した jConnect インストール環境の
 テスト 37

あ

アンインストール
 GUI モード 28
 Open Server 27
 SDK 27
 コマンド・ライン・オプション 30
 コンソール・モード 29
 特別な考慮事項 27
 プロシージャ 27

い

インストーラ
 log.txt 18
インストーラの log.txt 18
インストール
 GUI モード 21
 応答ファイル 25
 応答ファイルの使用 25
 コマンド・ライン・オプション 30
 コンソール・モード 24
 ストアド・プロシージャ 34
 内容 36
インストール後の作業 31
インストール前の作業 14
インストール・モード
 GUI 17
 応答ファイル 18
 コンソール 18

う

上書き
 重複コンポーネントの警告 22

お

応答ファイル・インストール・モード 18, 25

か

稼動条件

- SDK と Open Server のディスク領域 11
- ハードウェアとソフトウェア 7

環境変数

- PATH 19
- PYTHONPATH 31
- RUN 31
- 設定 31
- 環境変数の設定 31
- 環境変数、設定 19
- CLASSPATH 33
- JDBC_HOME 33
- 関連マニュアル v

き

起動

- Adaptive Server サーバ 19
- Adaptive Server の自動での起動 20
- Adaptive Server サーバの手動での起動 19

け

警告

- 重複コンポーネントの上書き 22

言語モジュール

- Open Server のコンポーネント 5
- SDK コンポーネント 2

こ

コマンド

- setupConsole.exe -i console 24

コマンド・ライン・オプション

- アンインストール 30
- インストール 30

コンソール・インストール・モード 18, 24

- setupConsole.exe -i console コマンド 24

コンパイラ

- SDK と Open Server の動作確認 12

コンポーネント

- Open Server 5
- 設定 32
- コンポーネントの設定 32

さ

作成

- sybase アカウント 14
- サポートするプロトコル 8
- サンプル
 - JDBC 2.0 37
- サンプル・プログラム
 - Open Server のコンポーネント 5
 - SDK コンポーネント 1, 5

し

システム稼動条件

- Adaptive Server ADO.NET Data Provider 9
- MDAC 9
- ODBC と OLEDB 9

す

スクリプト

- SDK コンポーネント 1, 5
- スクリプト言語
 - Python 4, 31
 - サンプル 31
- スタアド・プロシージャ
 - メタデータに必要 34

せ

製品の概要

- Open Server 5
- SDK 1

索引

た

- 対象読者 v
- ダウングレード
 - SDK または Open Server 29

て

- テスト
 - jConnect バージョン 38
 - 正常に終了した jConnect インストール環境 37

と

- ドライバ
 - SDK コンポーネント 1, 5
- トラブルシューティング
 - log.txt* 18

は

- ハードウェアおよびソフトウェアの稼働条件
 - SDK および Open Server 7

ひ

- 必要なディスク領域 11

ふ

- ブラウザ
 - Firefox での CLASSPATH の制限事項 34
- プリコンパイラ
 - Open Client Embedded SQL/C 1
 - Open Client Embedded SQL/COBOL 2

め

- メタデータ、ストアド・プロシージャ 34

り

- リンカ
 - SDK と Open Server の動作確認 12